



告志篇全

9
367



文久癸亥新鐫以頒封内

告志管篇

弘道館藏版



告志篇

我等淺學不才少て義理文辞とも似居意ゆへやしも
存付ゆ事包し居ゆるも家守の愚意も不取ら愚意
わすれりかかひ可きもあはれはのこつて一冊
とやう近侍のむねもあはれはのこつて一冊
とせんといふあはれはのこつて一冊
尤もねお守ゆへ大尋事と存ゆ也
人の貴き賤きより人の本心思ひ思ふ報ひはねえ

倭をくつねひ抑 日本ハ 神聖の國なりて

天祖

天孫統を垂極と建路ひよきとせしむる 明德の遠き
大陽ととも照臨あり 寶祚の隆なる 天壤と
もに窮るまじく 冥后父子に常道より衣食住の日用ふ
るまて皆あり

天祖の恩賚よきと萬民永く飢寒の患を免れ天下敷て
氷凍れ念と萌と難者と申し思多きは事なり
然しこと數千年の久しにうち盛衰なき事あり

ちの或ハ治り或ハ乱せ永祿天心の間よきて天下は
乱極まりかど 東照宮之河に起るるは松風

沐雨辛苦艱難ありてよき

天朝と補翼 奉り下ハ諸侯と鎮撫し治り二る後年
乃今よるまて天下泰山の安きを保ち人成途に
苦を免せしむられしをりた平乃徳澤に治り居
ゆるされ亦新者出事たりしやされハ人たるもの
かたきありも 神國の尊きゆきとていふべきなり
天祖の恩賚よきとるるをのり又の記ありとも

東照宮に徳澤とゆるむせよ心得てハ不相濟事と
存ハ家ハ愚昧して士民のよふを丁者よあつね
と祖先の後蔭より

天朝及ひ公邊の恩澤は治ハ不肖之位の尊と
汚ハ之家の重きも列して天下に藩屏ともお成居ハ
よら不及國家と安定ハ士民を撫育ハ本ハ報ハ
恩と歎い中度日夜心をはくハ半申ハ少ハ者ハ余
等の心を推察して一面に其身分を考へ夫れを
思ひ恩と歎いハ根心懸て申ハ人ハ取て生れな

るもの心ハ愚あるより賢きものしうはをいふつゝ
一頼淵も舜何人也予何人も有為者ハ若是といひ孟
子も性善を説き記ハ言必竟舜と称せりされハ某ハ古
の明君賢將と慕ハ名ハ古乃忠臣義士と慕ハ在也
ハやも小他國乃も名ハよもかるハ後代ハよもたれ
ハのれ父母の名等ハ顯ハ根とす其家ハハ恩度事ハ
能ハ家等ハ左根ハハ建ハ各ハ心得ハ与ハ善政ハ
行ハれハるものハ根ハ免角善政ハ下ハ致志ハ行ハ心ハ
あつたれハ行ハれハる事ハゆる何ハ行ハれハる事ハ

致して風俗と一節一國家と中興しよる者のたよげと
得て

天朝 公邊の御恩を報い者よ於ていよくと物前
を以て不肖の家等(精忠と畫)家として
天朝 公邊を法思ふるむのめさる根心無いて未
と名の忠孝此とあるまゝいふをせしむる飽やるる食ひ
煖衣て今日迄枕と高く安樂を慕ひい誰の思ひ
あるまゝや能くけしを毎へ一日たうふつうを口と不
送極致度い

今世のいよく父母を養ひ衣食の世話行儀きいと孝
子と唱へい交われ孝の一端にいとと庶人の孝とさ
る孝といやし難くねい孝徳よし天子より庶人まで
まゝ其立場より孝よしとて次第有る根相るる
お二人

天祖 東照宮の御恩を報んとて懇く心得遠い
眼前の君父ともし置たうちよ
天朝 公邊の忠を畫とむむ思ひ却て僭礼の罪の
あるまゝいふを思ひとせむらよよの次第有るる

ゆゑに希ふもはるやく免ふ角お面一の身分と考へて
實子心と困りて自ら過不及も有るはあはれ中述に
てんやん

天祖の恩責より萬民生育いづゝ 東照宮の徳

得まで國家たすお成 先君先祖の存慶より面

禄位を保ち居る處年と後世を懸るふ従ひおと忘

恩と忘るゝ恩ある事あはれや也多くも今も

天朝いさましく

天祖の日嗣は為渡今も 將軍家ハ即ち

東照宮の神孫は為在名不肖敵お威公の血脉
を傳へるハ先祖の忠系と継承はるまは此の
能くお承へ

天祖 東照宮の内恩を報んとたすハ 先君先祖
の恩と報んとし恩の外も有るはあはれ 先君先祖の恩
と報んとたすハ眼あのみ父ハ忠孝とあはれ外有るは
あはれ第一なる外ハ忠孝の道ありといふは皆是異端邪
説と存る忠孝一致と相承へる得違はるは根致度
事ハ

文武の道も心一致と存心凡そ武士たるも如く武道を
ふ勵して不叶依ハ各も承知之事も如くとも不学文
育もてふお流りも存心兒童も知たる通り今川
俊の不知文道武道遂に不為勝利と云ふハ言法
小似これとも肯深しと思ふ然るも不学の者文道
ハ漢國の教なるごとく物々矣い又た如く學ひある者
之を道に泥り竟歸す

天祖

天孫トつても疑も此と心得遠ふ者を記すもあは

家等淺學より古より暗けりとも切きよ

神聖の道を學ひつら思ふ小君居父子の大倫ハ勿
論祭祀と崇ふハ子報るの道より勇武を尚ひ恥と知
るの義あるまで皆神代のむりトつた倫なるも
めて忠孝文武振りふ文字こそかけき道にまよ
く神國の大道と存心と風俗の異なること異邦
小似これ威稜の健きと四夷もふらひ何れ事欠る
あやあやゆきと後の聖君賢人殊更人子取て善
を前記の經書賢人を異國に求め給ひたるゆゑ

漢土の書籍渡りて孔子の道も傳り 神國乃
道まひく明ふ制度も追くし備りたるがれハ
神國よて孔子の道と學ぶ人も孔子の堯舜と學ぶ
ものや

天祖

天孫と仰りて孔子の道も叶はせハ漢土
の乃も 神國の人學ぶ時ハ即ち 神國と學ぶの道
なるべしハ漢國乃道あり進志ありてなるべしハ彼
聖夷の佛教をいせし信向一系父母先祖とて佛抄

と習ふも獨文道にては漢國乃教わうとて學ぶ
ものハ違ふれ志も異なるや能く此道と無く文道
をゆへるも亦異なる根柢ハ是れ等のものなるべし
義士の忠訓ハ士の大節ハ陳とて姫冠と定め戰陣ハ
條とて勝敗をわくし生死を決し義理と分り學問ハ
あつてしめてしめても執りや然るも尚世々學の士
是れ忠臣のわのちもわくし武藝とてしめて死ハ
き場もあつても死と學問ハ書生のものも也するも
し學ぶたしはせざるもあつてしめて又もあつてし

一は是皆生と愛と死と畏るる者の生樂たるは
 一はたうとて一とて一とて死は内れるやち只
 義と愛は成て難しとて死は已せ死すは場
 たりとおもふがいつて死すは死あや山賊強盜の
 一は死を見ること帰するのや一は命と愛の
 一は生と死の介とたなる一かの會歎す
 一は關して命をこゝろみよ一よく關ひよく死
 一は成てさせせし鶏犬のこゝろ一はわらへ
 と能くす外 一はこゝろ文學の結世話あはるる

一は若しなれ知りしりて中も一は若く不能く文武
 一は一致たる武と女一鬼の角は修短専了の然何事
 一は事よと年月と新まひ學んこと志を迷る事よ
 一は勤向おふ由事おふ多とて教へて一はむす
 一はの如くたれとて已せの好むものよ一は
 一はれは好む事すれは何もよても大方はまぬとて
 一はるるあたり何程勇力ありても智を武を
 一はるるよとて何程事ありし一はれ
 一は一は學問せられは古人よとて記ゆふ事

分別も中宮あぬ南宮鐵も數度の遊と得て名刀
 の名を白むも唐の敷を徑る夜光の名は得る
 事なれは生年このまゝに置くは文武とも狂言乃
 者へ猶更精を勵みん極致度い
 太平の久しき風俗浮華よ起き文武とも衰弊一博
 釋等辯舌よく申述詩文の進志よ取廻しを文道と
 ん得弓馬槍刀小見事なる也一はを武道とん得ん極
 成りゆれ是ハ文武の枝葉なる文武の本旨ともいふ
 ういひは然るふ文武の枝葉ともいふ然るも心おこしういふ

文育人の人も道をも志し以柔弱滯情とて去るわ
 けとも忘る類あるハ誠よあやうし然るもたうはや近
 來又一種の英風をも志すわれハ學問とも勤けりて人
 乃論と勸説し武藝ハ勵けりて身取刀劔とていふ人
 一或ハ孝悌忠信の道とハ指して權謀術數と旨と
 人物の評論政事の批判ハ目と貫ハ才と脩め家と
 齋とてふふまゝにハあれと度外ハ置出歎以の外なる風
 儀なきやハもあらは君子欲訥於言而敏於行とて
 承ハハけは然るハ抑も何なるもや是皆眞實の心爲

一己を有るの心あきゆえたる一仍てハ正心誠
 意の學成なり一恭敬の義と取失との武藝れ義も表
 を飾るの意と出で沈鬱と尚し篤實律義のさ成候
 松可心懸の古語も人各有能有不能もい又大臣小臣
 の差別も事なりハ新能も至るくハ家中一板一紙
 のつよみあらハ經流史子の學とて一射御書數の
 類ふるも進志一いつ必かれと學ひ學ひいつ必これ
 と遂に極心懸ともハ國家の用と立られ致し業て是
 を大成しこれと國家の用と供せハ其益も廣大なる

すや志のふるふ前にも述る每て家慢の心より面々
 の業とハ勤びて空論のふらハ彼弊矯んけ契と除
 んとせば一契と除け去一契とせむ道理なりハ中道
 をとるゆへも指南の志ハ勿論仕業の物もの心と
 用ひくも正心誠意の道を日當と可改事なり
 支配の人ハ其乃人ふゆゆ大切な程世話つゝ悪
 る者もいつかおら終不申付内も改めさせられ職
 る者ハ心得又頭職の志ハ我おら申付人ゆゆハ
 如何し礼教と盡し諸事指圖と更ゆめ疎忽の

るまの言へば支配への得て事の内今大事なりはは頭
支配の情も為く成りたる事なり萬一事ありん時
は頭、組子の助けとの組子、頭の不知子、後ひ死生好
亡をも甚きいし、ゆゑまの心も常々支配の才能をも
知又次の氣質をも先連属一致の心得をいふ、不叶
事、まの頭へ支配とて、先容易ふを、まのかけ
をも尊きとて、後支配への前よびて、事、暑さりのへ
らひ、又ハ、飲と常座もの、ゆゑ、已中の事、理をも不叶、味
忽ち、此の振舞へ、い、類も、た、た、あ、及、の、く、の、如、く

ま、ハ、一旦、事、あら、ハ、却、道、路、の、人、も、お、こ、し、し、れ
下、情、ハ、よ、通、一、か、く、早、き、ハ、さ、き、は、押、れ、や、ら、き、
事、世、の、方、よ、ら、ハ、支配、の、情、と、能、察、し、存、心、の、お、も、有
え、い、く、十分、なる、中、述、理、ある、事、考、へ、て、取、交、已、出、の、過
と、改、る、事、せ、し、も、私、心、さ、ら、あ、ら、ハ、中、ら、お、ま、は、り、し、し、
理、を、以、中、含、い、て、何、ぞ、い、振、せ、さ、し、ん、然、る、を、理、非、は、不、拍
頭、の、威、と、以、押、付、ん、と、せ、は、い、ま、し、支配、の、心、と、激、し、る、の、こ
わ、ら、い、は、は、ら、る、而、我、お、の、不、為、と、も、た、ら、し、く、出、ら、れ、は、不、及
申、但、以、お、と、い、し、し、得、て、事、の、扱、又、支配、の、事、と、ら、う、て、い、ま、

といは生理ありと云ふは、まづ哉なきよしを身と看み
 ぬく、然然いふ事、我をよも福も政演述は、擧んと云
 ち、た理を言はしむる、一も述は然るを、然る之理
 たる、うてこれも、生理と申さしむる、長と云ふの、犯し
 け、け、己世の生理多くお來ふお海、事よ、此支配の
 表別をあれ、我か、も、見、す、寸、寸、一、是、中、の、ゆ、
 り、ゆ、ゆ、も、個、の、お、と、思、ひ、致、の、支配と、愛、一、支配、は、
 敬、一、尊、卑、の、礼、も、て、下、の、情、通、一、相互、致、し、て、不
 虞、の、困、ふ、油、ゆ、花、と、れ、一、懸、度、事、し、

朋友の交、相互い打解、睦し、申、敬、と、情、一、お、考、文
 武、と、以、勵、一、合、融、誠、信、と、不、失、了、了、一、事、事、ま、て、も
 お、後、と、考、一、約、束、し、一、約、束、し、ゆ、ゆ、一、の、交、か、一、
 不、申、極、よ、い、一、人、の、曲、と、以、來、了、了、と、し、我、の、直、と、以、慈、
 一、人、の、美、事、人、は、出、一、と、い、ま、ま、と、擧、め、人、の、過、
 失、人、中、の、秘、一、と、い、ま、ま、と、擧、め、中、の、意、見、し、一、の、極、
 よ、得、事、の、今、の、風、俗、は、目、お、う、一、可、も、事、事、と、い、ち、ま、い、
 互、い、の、論、い、苦、い、な、し、一、て、婦、女、の、お、き、ま、と、致、と、い、得、
 或、は、ら、易、ま、り、す、ま、し、一、其、礼、を、作、法、と、匹、夫、下、賜、の、お、き、ま、

と睦^{ムツ}もこの心なまじく意見^{イケン}をなする事も誅^{シツ}を費^{ツク}
 せしむ酒の上揚^{チヤウ}を辨^{ハカ}り申^{マウ}す中^{ナカ}述^{ツク}ゆれ却^{サガ}て争^{マカ}
 論^{ロン}の端^ヘを固^{カタ}き顔^{カネ}しふふ平^{ヘイ}日の淡^{タン}話^ワも飲^{イン}食^{シヨク}衣^イ服^{フク}の事^{コト}
 小^コあつされ^レに令^シ後^コ利^リ欲^{ヨク}ホの事^{コト}もせむい^ハと^ト六^{ロク}甲^{カウ}を慢^{マン}古^コ
 役^{ヤク}に新^{シン}級^{キウ}と種^カ人^{ニン}一^{イツ}利^リとんて義^ギと志^シを以^モて教^{ケウ}化^カゆ志^シ
 志^シきふ至^シるに同^{ドウ}級^{キウ}の中^{ナカ}親^{シン}類^{レイ}の内^{ウチ}も絶^{ゼツ}交^{コウ}する者^{モノ}あり
 大^{ダイ}義^ギの己^ミじ事^{コト}と行^{ユク}ざるよまて^テに義^ギ他^タす^スるもある
 一^{イツ}けせり多く^ク互^ニより辱^シまる所^{トコロ}より起^タる事^{コト}も
 教^{ケウ}戒^{ケイ}もあつ^テい^ハる中^{ナカ}の事^{コト}惡^{アク}友^{ユウ}生^{セイ}の事^{コト}も^ハ常^{ジョウ}に

誅^{シツ}信^{シン}と不失^{シラ}る絶^{ゼツ}わ^ハる事^{コト}起^タる不^フ申^{マウ}極^{キョク}致^シ度^{タク}の誅^{シツ}信^{シン}と
 不^フ失^{シラ}り^テ他^タ人^{ニン}も亦^モ誅^{シツ}と以^モする^ハ一^{イツ}ま^マて^テ中^{ナカ}に
 依^ヨる^ハも^ハより死^シする迄^キの朋^{トウ}友^{ユウ}た^ハい^ハ何^{ナニ}れ^ニ睦^{ムツ}く^ハ更^{マシ}
 る^ハ其^{ソノ}の事^{コト}た^ハう^ハ人^{ニン}も^ハあ^ハり^ハ其^{ソノ}能^ノく^ハも^ハす^ハ事^{コト}也^{ナリ}
 親^{シン}類^{レイ}朋^{トウ}友^{ユウ}の中^{ナカ}に^ハ何^{ナニ}れ^ニも^ハあ^ハり^ハ者^{モノ}ある^ハた^ハふ
 る^ハ御^ミ事^{コト}あり^ハ親^{シン}類^{レイ}に^ハ不^フ及^キ中^{ナカ}に^ハ互^ニに^ハ睦^{ムツ}く^ハは^ハ即^{ソク}
 ち^ハ一^{イツ}の^ハ事^{コト}も^ハあ^ハり^ハ亦^モ存^{ゾン}る^ハ所^{トコロ}も^ハあ^ハり^ハ又^{マタ}あ^ハり^ハ
 る^ハ事^{コト}も^ハあ^ハり^ハ人^{ニン}の^ハ過^タと^ハ責^{セキ}ハ^ハ明^{メイ}く^ハ聰^{ソウ}明^{メイ}成^{セイ}者^{モノ}も^ハあ^ハり^ハ也^{ナリ}
 此^{コノ}よ^ハ暗^{アン}く^ハ成^{セイ}す^ハ事^{コト}も^ハあ^ハり^ハ人^{ニン}の^ハ過^タと^ハ責^{セキ}る^ハ事^{コト}も^ハあ^ハり^ハ也^{ナリ}

身を責むるの能くなく拒むるも又世評を著し善惡
 亦不^{子シロ}能く苦むる者あり又父師と曰く拒むるの能く思ふ
 人情^{キコシ}笑事ハ告むる過失ハ告がさるるや拒む
 色なく慮^{キコシ}心よくせざるは又告る者ハ人の志しざる拒む
 一人との異見^シたり度事ハあるもいさく親友^シの
 事さればさう一人と告不告して人とたよ朋友の悪事と
 いはく席上の樂とほる拒む家^{オモテ}申さあらぬ拒む
 事ハ親類ハ不及申^{オモテ}曰く拒むる過有^{オモテ}る答文いさく由人
 勿論曰^シ拒むるの不念^シなる又善事^シあるて賞^シ受せし

るは当人の勿論曰^シ拒むるの事極^シたれば何^シ拒むかといは
 拒の能く拒むるに付互^シ不^シ腫く善惡知^シせ合^シすハ新^シ親^シ
 曰^シ拒む成^シる拒む何^シ事^シも無^シ伏^シ虎^シ中^シ指^シ支^シす^シ物^シ易^シ
 き極^シまはし古^シ役^シた^シく^シ權^シを取^シ新^シ役^シと^シた^シす又^シ新^シ
 役^シ費^シと^シけ^シく^シ樂^シ或^シハ勅^シ向^シ委^シ細^シは不^シ傳^シた^シる^シ
 亦^シ不^シ働^シと^シけ^シて^シ笑^シ拵^シは若^シの指^シ支^シの^シ事^シハ^シ主^シ夫^シの
 用^シも^シ毎^シせ^シる^シ事^シハ^シ拒^シむ^シや^シと^シさ^シる^シ事^シハ^シ拒^シむ^シ
 事^シハ^シ拒^シむ^シ事^シハ^シ拒^シむ^シ事^シハ^シ拒^シむ^シ事^シハ^シ拒^シむ^シ
 事^シハ^シ拒^シむ^シ事^シハ^シ拒^シむ^シ事^シハ^シ拒^シむ^シ事^シハ^シ拒^シむ^シ

何事よもりの己事の能を扶くそ人の能を妬み杯はる
ちやんや一きわちや何事よもり家よもりかゝるもあ
らば極むをも妬み子依よも同く又我より後たるも
をい結世話いりしし之れ能とて一高弁る能能かすく
きたる者多し出来いままの爲るも然るも文武の
す回流あても他流よもよの志を妬み杯するは
へ對し不忠たるもわくひや己事の不遇と恨く人乃を
身とて嫉む杯は杯文よもあるもわくわく我も
不肖之民のよ事と居りて家中の賢能と妬み杯はる

懲りめ申度者くも困るぬも知人の難き人
の病はよ和して申くは便るはる多の家中よ善
をわくてかくれ居るも又悪となりて姑の居
ゆも可省くは夜泣きいりて又面よ控へはふのや控
まひりしし正道とちりて物りと戒めぬ致度事よ然
るも誰よ善行あねもこの賞も願ふねは善をか
はも吾意さうと思ひ誰よ善行あれとも罰は
らねい悪をたしめても中滞あつて一人や二人の進
退と見て忽ち心を動し悪をあらねる志は家

中よりあるまじくい何るまじくい定置所の法度不
 父母師友の教戒と守る、勿論まじくい支まじくい
 うち抵の人、是は善先、悪も依もまじくい悪き
 事、其の隠しを、行ひし、一向善悪の境、不れ毎と
 を申か、く多分、己まじくい悪まじくい存、くよまじくい
 られまじくい知つ、けい、事、まじくい求て、けい、まじくい
 たる、く、か、れ、まじくい、より、歌る、まじくい、た、まじくい、子、ゆ、まじくい、いつ、ま
 なく、法、行、まじくい、存、く、内、省、不、疚、の、聖、語、服、膺、致、た、まじくい
 事、まじくい

大石小屋とも入を積りて出し、事々加減し、く、不、申、り、て、
 後手の取、申、り、も、不、お、成、第、一、の、道、も、けい、申、中、ら、まじくい、あ、り、ら、る
 常、く、此、事、まじくい、何、も、省、思、まじくい、あ、り、まじくい、家、の、大、小、も、限、相、應、と
 考へ、造、他、ホ、も、種、子、まじくい、た、り、は、後、に、まじくい、まじくい、事、と、存、ひ、まじくい、り、て、江、戸
 の、小、屋、に、勿、論、まじくい、は、り、外、衣、服、飲、食、ホ、成、た、け、法、まじくい、まじくい、まじくい、可
 申、ひ、中、に、まじくい、まじくい、まじくい、まじくい、朝、夕、食、まじくい、する、所、の、米、穀、ハ、粒、ハ、米、乃
 辛、苦、まじくい、り、て、人、く、祖、先、の、勅、号、ホ、と、以、先、君、ホ、も、賜、まじくい、り、
 る、所、な、れ、ハ、食、まじくい、する、毎、まじくい、は、所、と、不、忘、一、拍、く、まじくい、まじくい、まじくい、まじくい、
 然、後、の、まじくい、まじくい、然、る、まじくい、まじくい、まじくい、まじくい、まじくい、まじくい、まじくい、まじくい、
 然、後、の、まじくい、まじくい、然、る、まじくい、まじくい、まじくい、まじくい、まじくい、まじくい、まじくい、まじくい、

けぬおりの根のあせよりさけるよあまより豊年ハ後にも
 なるぬらひよあまの何れもやうぬるやうといふ山をよ
 て民間より米穀もせし倉庫より扶持も不渡りや
 何れも中や金銀珠玉ハ飽て食するやうに又飽後ハ
 淫欲とせし飢寒ハ善心を費とて凡そ中の者多分
 後とす切武備も失ひると皆やなと忘せて奢
 侈は長一武士一統上忘よかたたるゆゑと好い今一
 といふんよむの一二る石とる石取も心懸て一馬と物
 りを今一とるとおといハ口取中間のともまかせ自方の事と

不致黻黻も華美よとなくふたけぬ根よのふらふと
 忘せてと忘たりするおあやまの如く自の性よかた
 せ起しとすも何事も自れ又いふ事と世話いたし
 んよおまぬるハあるましく却て扱もたれは受ぬ
 と好い昔ふはしれハ今ハ徳色も格別よ高くあま
 け更自れと世話と致しとハ何事もや辭ハいふ
 不家内大勢のちと察しとて同縁とて人あまき
 馬も扱しとあたまよるも石持持もよとてさるハ
 るおまやいといふ

武志と好む速甲冑と好て多く集め人もあまた又ハ刀
 劍と好て多く集め人もあまた何事も悪くぬき事
 けはとも金銀いりいりしては好む思て多く集め
 けは格別只一方の多く集めは好む思の患かきあはれ
 あはれはれ小柄の白端大に連し槍刀ハ玉座の名他を
 好むも不及扱ひ曲るも業物とて掛物具も又舞と不
 好波のよきと心懸馬も毛色扱と好む思思のよきと
 個立外皆実用一通りたて好む思思のよきと好む思
 思も夫も取揃へ出陣するよし扱支を扱ひいりいり

当世まで容易なる事ハコトはれハ人ハ油断なき扱
 扱ひ
 人ハ危き事いりいり剛の者いりいれと聞い
 いりいり臆病とて扱ひいり大なるいり遠くねいり
 才ハ父母の遺體とては家ハはれいりいり我が人ハ
 常々君父の恩義と不忘し思の身も己の才も思
 大切とて思ひいり危き事ハいりいりいりいり
 よい思ハ何程も思付丈夫とて思求て不忠けいり事
 をせし何程も思かの事思思も思求て危き事を

世の事は^ヒ能く^ハ髪^ハ膚^ハとも毀傷^セせしめて^テ戦陣^ニもろ
 美^ク人^トすく^レ小勇^ト振^ンんと^シ熱^クい^テ去^リの^志と
 け^レけ^レは^レか^レち^ノ歎^ハかる^事と^テ大酒^ヲ大醉^ノの^悪
 さい^トい^ハる^ハ人^ノ承^知る^事と^シよ^シか^レつ^テあ^レる^濁
 志^トする^事あ^ラず^シ亦^モ遠^ク不^覺悟^ノの^まと^好い^まの^平の
 乃^ハ熱^大切^トと^一寸^ツと^あら^ずも^覚悟^ある^事と^テ此^ノ事^ヲ
 及^ヒせ^るは^沈醉^トと^シて^シ體^ノも^ろけ^たも^失ふ^時万
 一^ノ不^慮の^まあ^らん^よか^何も^智志^も分^別出^中る^事武
 人^ノも^この^外の^不足^とを^もこ^らへ^ずと^シて^シ喧^嘩争^論が^多から

酒^ノと^よち^起る^事と^武士^ノ志^ヲ遂^フ使^レれ^喧嘩^ハい^ハ
 しく^恥辱^ハする^事あ^らず^も也^前も^いつ^る如^ク夫^ノ父^ノ忠^義を
 忘^レる^腹の^ま不^覺也^と身^體も^ろけ^たも^武士^ノの^勸も^自己^ヲ
 なく^れ刺^ハ大^切の^身命^ヲを^傷ふ^事と^シて^シ悔^ミする^事な^らず
 す^やそれ^ハあ^らず^も熱^クい^テ去^リの^志と^シて^シ大^難の^徴
 を^不忘^ル振^度る^事と^シて^シ後^悔の^涙忽^チと^出る^事と^シて^シ大^難の^徴
 了^レ致^ゆへ^一寸^ツと^あら^ずも^し疎^畧と^不覚^スた^事と^シて^シ成
 り^速も^おし^も不^覺振^度る^事と^シて^シ悔^ミする^事と^シて^シ
 利^欲ハ^人情^誰も^も有^る事^とシ^て人^ノ如^ク何^レ成^ル事^と

已せし利ありはまゝ思ふにちかき事なま
 へあるまじき事なる利とて義を以てし
 語忘るる人いふも一回利をかりし根
 心利も悪くまゝあつて人々を以て己せ
 と利一塵心と忘れ金銀を好むは法
 る志は侍祿を一身の出入と定め
 家来より指不虞に備へし
 うも國家の困るに教
 財は不及事なうとも非道の金銀と

子孫に教わくして子孫思ふ時
 利淫の嫌とあつて譲らざるは遠
 を譲んよ、子孫と教ふは
 はある子孫教育に心
 一も当時の風俗大臣の子
 略不致を程とせしむるは
 長一小事と見下し類もあり
 政務も頼り國の柱石
 學問を以て勵む下情も通

かくして幼少よりききいとサレハ扶心サレハ極子サレハ無サレハくサレハ癖サレハとサレハ行サレハは
 ようやく十半あり且大はふは限らす幼奉る内々文
 武の藝と勤むいひ十五よりわらふい一部キヨウとキヨウ修業
 と急オキくオキ讀書オキとオキ恥オキするの極オキ子オキ成オキ武オキ藝オキとオキ大抵
 廿餘オキ歳オキもオキ志オキとオキ出オキてオキ人オキ金オキ銀オキ酒オキ色オキのオキ欲オキはオキ溺
 るオキハオキ嘆オキもオキあオキたりオキ天下オキのオキをオキ争オキひオキたオキれオキはオキ知オキ造オキは
 てオキふオキ子オキ供オキもオキ爵オキにオキ爵オキまでオキさオキしオキけオキれオキとオキ徳オキとオキさオキひ
 齒オキとオキさオキふオキるオキわオキかくオキてオキけオキしオキ中オキへオキはオキ然オキるオキふオキ親オキのオキ威
 とオキ挟オキしオキ先オキ生オキ長オキ志オキとオキ教オキせオキるオキ極オキまでオキはオキ不オキ通オキるオキふオキ聖

人よりすう十五より一オキくオキ學オキ志オキすオキことオキありオキてオキ為オキのオキ人
 十五オキのオキ前オキハオキ目オキ滿オキりオキ不オキ立オキ事オキなオキれオキハオキ不オキ依オキハオキ子オキ依オキおオキ毎オキ事オキと
 いオキくオキ一オキ文オキ武オキのオキ業オキもオキ子オキ依オキけオキはオキいオキてオキせオキ垂オキ十五オキよりオキ至オキて
 小オキくオキ精オキとオキ出オキてオキハオキ心オキおオキれオキ幼オキとオキのオキまオキのオキ能オキ氣オキ一オキ教オキして
 ことオキ修オキ業オキもオキ極オキくオキ分オキれオキ然オキるオキことオキはオキ至オキれオキハオキ親オキくオキ深オキくオキ世
 治オキ不オキ政オキ一オキ統オキのオキ弊オキ凡オキとオキハオキ乃オキちオキ中オキへオキぬオキ事オキたるオキ神オキ樂オキのオキ歌
 子オキ深オキ心オキもオキいオキれオキるオキ外オキ心オキたるオキまオキまオキのオキかオキつオキるオキこオキつ
 きオキよオキけオキつオキ易オキ履オキ霜オキ堅オキ氷オキ至オキるオキ見オキえオキるオキ何オキるオキしオキ最オキ初オキの
 習オキりオキのオキ一オキもオキもオキ子オキ事オキれオキ教オキ育オキハオキ厚オキくオキ心オキとオキ困オキはオキるオキ事

此の大方のまゝと存ひ大庄の儀に程更教誨あつた事
事よひ

風俗と云へく武備と整へるゝるゝ宴會淫樂かの奢り
止め錦服の榮華と命一たるも畢竟面々の為と存
ひ教致世話をたへ不息して宴會と禁ふすれは榮華を
せんといひ舞服をもすれは恥ぢる事好む振ふ
いひく我等の前又容振方と云へ求て舞服を用ひ
拙己の他世のきい美服と用ひて飾るゝかと思
へ服のを羨しと核もなきあへく穢身申すたると

あつた武備の心懸かせすして制禁の場を起し又湯
浴ふかを付けし利よ金銀を費して樂を振ふる悪
風なきもあらん人々文武の道と心懸不虞の手
前も整へるとし身の役もよ海も染し保養よいつい
ち禁せるといへるもし時の下知まほひ男たるの振ふ
あつた何れもやそれ樂と云へし人よたつて不
叶るあれは際辛苦艱難のそなへてやて是れも樂
にかゝるやと云へるもあつたいふに面々を存ね
穢身申す武備も整へたるよよ何れもおの樂ある

へきなり 孔子の飯蔬食飲水樂亦在其中このこといひ孟
 子の仰不愧於天俯不怍於人といふ如きの智賢の樂を
 て申す及ひゆる事なれども文武の藝能を始め勇
 しき樂も心やさしき樂も心行くも随てみる事や
 ねひ聲への書籍を耽る古人を友と詩歌を詠して
 朋友と親しみ或は流と携つて山野を遊獵し
 るふ跨りて海を遊遊し一瓢と華を酌て瓶與を
 伴ひ横笛を吹り吹く幽情と土俗の類凡れは歎
 たる樂いさす武士の樂も人の才藝より長し身

禮といひて 武を以て成事なれ人の好むれある
 一 浮屠の風俗は深くて実學をも薄せし意多の爲
 め務多とするに切て馬やも不持懦弱して風雨寒暑と悲
 中武藝をも勤め人又育を風流を詩歌の興とて
 す武士の樂への程もあれども己の務より樂もす
 又酒徒骨貝之類かの淫樂を乃に樂みとすはさ小
 似合ぬたるごとく我がゆるし不やるゆめと化し
 備整たるごとくも我がゆるし不やるゆめと化し
 根の念としら武士の業と勤武士の心を樂むは致

度す事よひ
 忠言極諫ハ勿論凡そ下なる對一 好意のオヤとてい
 人の至難と存しぬお漢口東面篤信入上言おいく
 斗い志もわが大慶ふそそ 好ん然るふ近來好意お中
 立の志遠く減おいく 何共の細き事より有るは忠臣更
 士ハ聖賢の世よりとら國と愛君と愛一ハ事と承及
 況や今士民の風俗も昔と改らぬ國家の武備も昔と
 整らずるより見いり可申事何程歎てみるは
 とも上書お目致減おは後不審のむより察する可面

精力と考一折角中ゆりも逐一ハ用おも不致ぬ
 力減落一何程中ゆりも益と存見合居ゆり
 下るる我おん不及之縁を聞き衆言とも承度存
 り上ハ面々好意中おはぬ 孰慮いぬ 尤ある依ハ
 とも取用お申度好意とし下見ゆ殊々外身輕
 根致る箇中ゆり事ハ於家等好外差支多
 とも記る 折角又ハ一方は悪ハ
 有るは兼々毒折角ハ好意を定一ハ致ハ類も
 外名ハ折角尤の儀也中ゆりも家等の愚昧

春^{ハル}遠^{トホ}なるも何程歎^{ウレシ}まらざりしと云^{イハ}はる者^{モノ}事^{コト}も中^{ナカ}少^シなる程^{ほど}成^ナりゆく國家^{クニカミ}の不幸^{フコク}はとある
 るかぬはる程^{ほど}さ^さし^し懸^ケひ^ひ伏^{フス}為^{ナリ}中^{ナカ}少^シは程^{ほど}と云^{イハ}は
 り程^{ほど}小^コ

國^{クニ}の幸^{サイ}は家^{カミ}のあはれな^なり^りのま^まも^も事^{コト}止^トり^り面^{オモ}
 共^{トモ}家^{カミ}の事^{コト}と脩^{シユ}んと^と思^{オモ}は^はり^り國^{クニ}も治^チらす^すて不^フ計^ケ現^{ゲン}
 る程^{ほど}の扱^ハえ^えは^は職^{シヨク}より^{より}勅^{トク}向^{キョウ}の相^{サウ}違^{チガイ}有^アり^りとも目^メ
 當^{タウ}とい^いは^はれ^れ一^{ヒト}致^シき^きる^るお成^ナら^らぬ^ぬは^はこれ^{これ}と旅^{リョ}行^{コウ}
 は^は整^ツん^んの^の人^{ヒト}より東^{トウ}海^{カイ}道^{ダウ}と^とゆ^ゆく^く志^シも^もあ^ある^るく^く本^ホる^ル路^ロ

と^とゆ^ゆく^く志^シも^もあ^ある^るく^く又^{マタ}海^{カイ}路^ロより^{より}する^すとも^もい^いは^はる^る一^{ヒト}心^{シン}
 の違^{チガイ}速^{ソク}にある^{ある}は^は何^{ナニ}れ^れも^も事^{コト}都^ツに^に到^{トウ}意^イする^すは^はさ^さめ^めな
 り^りか^かん^んとい^いは^はる^る目^メ當^{タウ}ある^{ある}故^{ユヘ}に^に政^{セイ}事^ジも^も亦^{マタ}た^たの^の如^{ごと}く
 小^コく^く文^{ブン}道^{ダウ}も^も武^ブ道^{ダウ}に^にせ^せよ^よ人の^ノ指^{サシ}あ^あは^はせ^せの^の程^{ほど}に^に
 是^{こゝ}より^{より}も^も目^メ當^{タウ}と^と定^{テイ}居^イは^はり^りの^の便^{ベン}も^も苦^クみ^みある^{ある}る^る
 故^{ユヘ}に^に事^{コト}も^も不^フ及^{トク}風^{フウ}俗^{ソク}と^と改^{カイ}武^ブ備^ビと^と整^ツん^んと^と目^メ當^{タウ}と^と三^{さん}
 日^{ニチ}夜^ヤと^と用^{ヨウ}ぬ^ぬは^はとも^も十^{じゅう}分の^の一^{いち}も^も不^フび^び履^リ跡^{セキ}と^と云^{イハ}は^は
 る^るよ^よは^はは^はる^る一^{ヒト}心^{シン}も^も家^{カミ}中^{ナカ}に^に成^ナり^り一^{ヒト}体^{タイ}と^とい^いは^はる^る勅^{トク}命^{メイ}
 は^は遠^{トホ}く^くい^いは^はる^る國^{クニ}家^{カミ}の^の為^{ため}と^と存^{ゾン}は^はる^るお^お遠^{トホ}く^くあ^ある^るき^き苦^ク

かなれども時の弊風を武士一体あつてと志き文官
 武官と分ける様も成り役人の外に政事も拘らね
 馬麻までも勤まる様も自分ふくも志きしき
 かくの悪くすとかうても是きこと得政事の得失
 人の善悪も他國のうすも批判するやふよ
 一々ぬい英風なきうもあつて役人のやう
 と骨ごとく精勤いこはれ見らるるも是のま
 実な職も身と入らぬ勤むるに不多おしく
 しては換せんよりいふとせよして越度なき様も

どの熱い弊風なきうもあらはかくのやく
 け先の目高なき旅行も田舎うへ一歩を進め
 ても亦一歩と退きつうてもは履ゆるの
 仍る能はけれと考へるのときも皆役人の
 進めしき身と疎略も致し跡と考へる一歩と
 但中の吏と腫しく忠孝文武を以て合番頭
 する諸士のまな自他のん張る相成り職
 言ひとも懐き何なりもはねるの
 出役人もも遂判談國もめと休戚を共する

有る度なる面々の心けかゝのやくたうしんまの風俗
 もつその改らざるも武備といふその整いさし
 天下安んずる礼と志きひいつ何時 公邊より討まの
 大將は 仲好いこと一回かゝる差支なき極不の思
 ゆるハ士の論てなきハ士農工商支々の持ありて今
 太平の世も農と工商といふこの業ありて支いハ
 ある事なるふ揚りなきまゝしてその備たること
 亦るよたまたなれハてて武道の嗜もせハ飽合ハ
 衣今ハ此安撫も善しなる厚さ 清思とさハ
 橋

侯ものも一寒暑風雨よ逢てし忽ち和室と
 る振ある柔弱の身とちやしてハ六四氏の内の遊氏
 してしハれと恥うし思てされ道やん思士の備
 ちやハ不虞の用よ依し事ハ思多くなり
 天祖の思も 神國よ昔一 東照宮の徳沃
 してたまは沐浴一累代安樂よし居るや中
 もなきは萬一事故ある時ハ和等ハ不肖
 天祖 公邊の法為ハ命と塵芥もハ
 大恩とを報ハ取らる面も其心ぬと報ハ何

時公馬い〜〜〜^{サレ}支^スを〜松常〜
天保四年癸巳二月廿之日

瓜

右古志篇、壬辰の秋より、景山公思召〜せられ
法政務の涉解暇書綴せ給ひ高書監庚の召命よ告
爾于朕志若否と云々と取らせ給ひてかく名付々
給ひ〜今茲癸巳二月初、法園に就せられ
寅賓の閣よ、御遊縁の拵〜、法親書〜せ
ら行〜即ち〜と賜り存意もひ〜あ〜
〜と法謙遜の、仲と蒙り恭〜〜〜
不深く世俗の浮華と歎せられ、威義二公以
来、法先代の法志と継せられ弊風と一洗し

文武の大名と申候様遊をれ忠孝の大本と統
き曉し給ひし也士民の爲に 法心と申をやれ
法愛慮遊をれい 法仁慮誠は有難き事申はり
すやうく存まき 是を思ひたりももの舊汚は深
て自新するの志を入んてはせせりともも入り
されば公御は武を寫しては法治化益を速に
りれ 二心の法世は復せん事と申はりのあらまり
見えんるの喜ぶたらひを寫しては傳へりともも
就中漢語をて法團の遊をれり 亦も同くあり

ハ人もももとも諭するもももともあらんの高き方は海に
とは一に通じりしやらんのともともとものみ
天保四年癸巳孟夏 松平将監頼位謹識



成文
六

